

二重投稿及びオーサーシップに関するガイドライン

本学の研究活動に係る不正行為防止規則において、不適切な行為として位置づけられている論文の二重投稿及び不適切なオーサーシップについても、近年研究不正行為として認識されるようになってきています。これらは、科学への信頼を致命的に傷つける特定不正行為（捏造・改ざん・盗用）とは異なるものの、論文及び学術誌の原著性を損ない、論文の著作権の帰属に関する問題や研究業績の不当な水増しにもつながり得る行為として問題視されてきています。本学で研究活動を行っている構成員が自覚せずに行ってしまうよう、以下に基準を示し、研究成果を適切に発表することを求めます。

1. 二重投稿

二重投稿とは、他の学術誌等に既に発表又は投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿する行為とされており、こうした行為は、1) 編集者、査読者等の時間と経費を浪費する、2) 研究業績の不当な水増しにつながる、3) 特定の考えを示す論文を多く見せることにより誤解を生じさせる、など、学術活動全体に悪影響をおよぼすこととなります。また、多くの学協会等では投稿された論文の著作権は投稿された学協会等あるいは出版社に移譲することとなっており、学術誌に投稿した論文と同じ論文を他の学術誌に投稿することは、最初の学術誌の著作権の侵害となる場合があります。なお、博士論文は、学術機関リポジトリ(repository)を通じ、インターネット上で一般公開されています。学術雑誌の中には、学術機関リポジトリで公開済みの研究成果を「発表済み」と見なされることがあります。Thesis 形式論文を学位論文として提出する際には特に注意が必要です。

二重投稿とならないために

- (1) 同一のデータを使って作成した論文を複数のジャーナルに投稿しない。
- (2) 投稿した論文が査読中で状況がわからない場合でも、出版社からの返事を待ち、その出版社が出版しない場合に限って別のジャーナルに投稿する。
- (3) 過去に出版した論文と同一の内容を別のジャーナルに投稿しない。
- (4) 二重出版と見なされる可能性のある過去の投稿(会議でのプレゼンテーション、レジストリへの結果投稿を含む)があれば、投稿時に完全に開示する。
- (5) 別の国または別の言語で出版されているジャーナルに過去に出版した論文の内容を投稿したい場合は、それが可能かどうかを出版社に尋ねる。
- (6) オープンサイエンスの一環として、プレプリント(査読を受けていない論文の原稿)として BioRxiv、medRxiv、Rxiv など で発表された論文の情報を自分の論文に取り上げる場合であっても、適切に引用する。

2. 不適切なオーサーシップ

不適切なオーサーシップとは、論文著作者を適正に公表せずに論文を投稿する行為とされています。不適切なオーサーシップには、「ギフトオーサーシップ」(論文に直接的貢献をしていない人を著者として記載すること)、「ゴーストオーサーシップ」(研究論文に対し有意義な貢献をした人々が、何らかの理由で共著者として示されない場合)、「ゲストオーサーシップ」(研究領域の有名研究者を共著者に招いて審査を有利に進めようとする)と呼ばれる行為があります。オーサーシップは、著者としての功績を示すだけではなく、発表された論文に対する責任を伴いますので、研究不正行為が明らかになったときには、共著者にも著者としての責任が問われます。著者としての功績を示すだけではなく、発表された論文に対する責任を伴いますので、こうした問題を減らすには、研究の立案段階から当該研究に携わる者の間で著者資格について決定しておき、原稿の投稿前に誰が著者であるかを確認することが求められます。

医学分野のみならず多くの理工学系の研究分野でも参考にされている医学雑誌編集者国際委員会(ICMJE)が策定したガイドラインでは、著者は以下の4つの基準のすべてを満たす必要があるとし、4つの基準のすべてを満たさない者(例えば、資金の調達・研究グループの一般的な管理業務・一般的な事務支援・執筆支援等を行った者)は、著者に含むのではなく、貢献者として謝辞に記載すべきであるとしています。

著者資格

- (1) 研究の構想、デザイン、あるいは研究データの取得、解析と解釈に実質的に貢献した。
- (2) 論文を起草したか、または重要な知的内容について批判的な推敲を行った。
- (3) 出版原稿の最終承認を行った。
- (4) 研究のあらゆる部分について、その正確性または公正性に関する疑義が適切に調査され、解決されることを保証し、研究のすべての側面に対して説明責任を負うことに同意した。

オーサーシップの問題を考える際、重要な役割を果たすのが、学術雑誌に論文を投稿する過程において、編集者とのやり取りを担う責任著者(corresponding author)です。責任著者の定義には、以下に記す医学雑誌編集者国際委員会(ICMJE)ガイドラインの定義が国際的に採用されています。

責任著者

- (1) 投稿、査読対応、採択後の出版に至るまでの各段階において、学術雑誌との連絡および意見交換の基本的な責任を負う者を指す。
- (2) 責任著者は、オーサーシップに関する詳細情報の提供、研究倫理審査委員会の承認、臨

床試験登録の書類、関係性及び活動の開示など、学術誌からの管理上の要求のすべてを適切に処理し、報告することを保証する。

- (3) 責任著者は投稿、査読過程の段階では編集者の質問に対応しなければならない。また論文発表後、論文に対しての批判があればそれに対応すると共に、学術雑誌からのデータや追加情報の提供要求にも対応しなければならない。

なお、責任著者は、上記の任務の一部を単独または複数の他の共著者に委任することもできる。

「参考資料」

※研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(平成26年8月26日)文部科学大臣決定

※科学研究における健全性の向上について(平成27年(2015年)3月6日)日本学術会議

※医学雑誌掲載のための学術研究の実施、報告、編集、および出版に関する勧告(2017年12月改訂版)医学雑誌編集者国際委員会

※医学雑誌編集ガイドライン2022(2022年3月)日本医学会日本医学雑誌編集者

※Elsevier: Ethics in Research & Publication

※APRINe ラーニングプログラム教材

以上

令和5年4月24日不正防止計画・推進委員会承認